

〈寄稿論文〉

アイルランドの聖地*

藤 原 武 弘**

本研究の目的は、現地調査とその調査で得た資料に基づき、アイルランドの四つの聖地を紹介し、その相違点と共通点を明らかにすることにある。ところで聖地とは一体何であろうか、どのように聖地は定義づけられるのであろうか？『世界宗教大辞典』（平凡社）の定義によると以下のようになる。

信仰または伝承によって神聖視される一定の地域をいい、崇拝・巡礼の対象とされるとともに、みだりに出入りするののできない禁忌の場所でもある。聖地は大きく分けて、①山、森、林、岩、川、樹木、泉、湖、井戸などの自然景観にかかわる場所、および、②聖者や星人、修行者や英雄にゆかりのある霊地、本山、墓所、という2種類の系列が考えられる。とはいっても実際は①の自然景観と②の霊地における諸建造物とが一体となって聖地空間を形成している場合が多い。

植島（2000）もこの定義を踏襲している。場所そのものに特別な力があるとする立場とその場所が特別重要な人物（神）と関係しているとする立場について述べている。彼はこの二つの条件に加えて、「人間が集まることによって特殊な磁場が形成され、そこが聖地となる」という第三の見解についても触れている。

関（2004）も聖地とみなされる空間に共通してみられる特徴として、自然物の聖地と歴史上の人物ゆかりの聖地の二つを指摘している。また自然物の聖地に歴史的人物が新しい意味づけをし、新たな聖地を生み出すこともあり、二つの聖地はしばしば重層的な現れ方をすると述べている（関、2004）。前者の具体的な例を挙げると、山や森の聖地として、神体山の代表である奈良の三輪山、

ギリシャのオリンポス、チベットのカイラス山、中国の民衆道教の聖地である泰山、ラオスのポウパ山、聖なる河としては、ガンジス川をあげることができる。後者の聖地として、エルサレム、ローマ、メッカ、キャンディなどは、イエス、聖ペテロ、ブッダに由緒ある土地として、大規模な巡礼を生んでいる。

山中（2012）は、現在いろいろな聖地が作られ、蘇るという視点から、横軸には「宗教的聖地—非宗教的聖地」、縦軸には「信仰・慰霊・顕彰—ツーリズム・文化財」を取りあげ、4つのパターンに現代聖地を分類している。すなわち、「宗教的聖地／信仰・慰霊・顕彰」（第1象限）、「宗教的聖地／ツーリズム・文化財」（第2象限）、「非宗教的聖地／信仰・慰霊・顕彰」（第3象限）、「非宗教的聖地／ツーリズム・文化財」（第4象限）という4つの類型である。具体的な聖地として、メッカやエルサレムは第1象限に、四国遍路やサンチャゴ・デ・コンポステラは第2象限に、アウシュビッツ収容所跡地やグランド・ゼロなどの悲劇的場所、いわゆる負の聖地は第3象限に、アニメの聖地は第4象限に布置することが明らかになった。横軸である宗教と縦軸である信仰・慰霊・顕彰である横軸が斜交しており、独立ではないという問題点はあるが、多様な聖地を分類することが可能となる利点はあるのかもしれない。

アイルランドの聖地や巡礼については、そもそも聖地が存在するのか、存在するとすれば、その聖地はどこにあるのか、また巡礼という風習が存在するのか等、ほとんど知られていないことが多い。たとえば、『世界の聖地』（国書刊行会）、『四

*キーワード：聖地、アイルランド、アワ・レディーズ・アイランド、ノック、ロー・デルグ、クロー・パトリック

**関西学院大学名誉教授

国遍路と世界の巡礼』（法蔵館）といった書物では、アイルランドの聖地にはまったく触れられていない。『世界の聖地』（東林書房）では、クロウ・パトリックについては記述がある。唯一の例外は五来重著の『遊行と巡礼』（角川書店）である。クロウ・パトリック、アワ・レディーズ・アイランド、ノックの3つの聖地について簡単に触れているが、聖地の成り立ちや巡礼の歴史についての情報量も少なく、十分ではない。そこで本論文では、筆者が現地調査を行った成果に基づいて、アイルランドの聖地、巡礼について詳しく述べることにする。図1に示したように、アイルランドには4つの聖地が存在する。そして興味深いことに、首都のダブリンを中心にほぼ200キロメートルの半円上に聖地は位置している。サンチャゴ・デ・コンポステラ、ルルド、エル・ロシオといった、ヨーロッパ大陸にある聖地同様、アイルランドの聖地も僻地にあることが明らかになった。

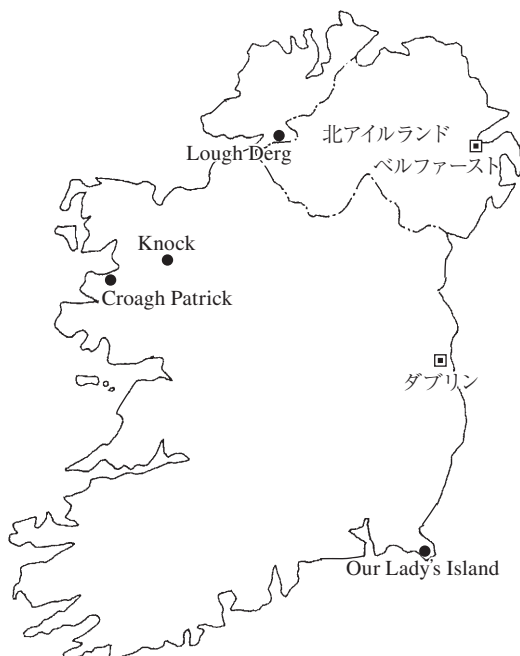


図1 アイルランドの聖地

アワ・レディーズ・アイランド Our Lady's Island

この聖地についてはほとんど資料がないので、教会が発行しているパンフレットによった。聖母マリアへの敬意を表した巡礼は非常に古いので、いつからそれが始まったのかは未知である。ノルマン朝時代までに辿ることができるのは確かである。なぜならその時期にその土地を所有していた Rudolphe de Lamporte が教会へその土地を与え、島を管理するよう司教座聖堂参事会員であった聖アウグスティヌスに依頼したからである。その後、Rudolphe は、十字軍に参加し戦死した。アウグスチヌス派の教会が迫害のため、破壊され、聖職者が殺害される、17世紀まで巡礼は継続した。現在教会の礎石は1863年に置かれ、教会は1864年8月15日に教会は開かれた。

教会発行のパンフレットによると、巡礼の順序は以下である。

- 1 教会を訪問
- 2 島の入口の shrine で祈る
- 3 左に曲がり、三つのロザリオを唱え始める
- 4 島の上にある shrine で祈る
- 5 教会を訪問

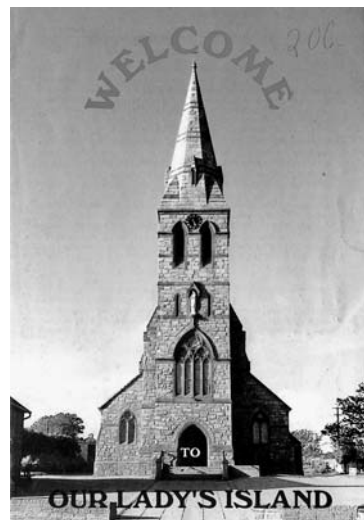


写真1



写真 2

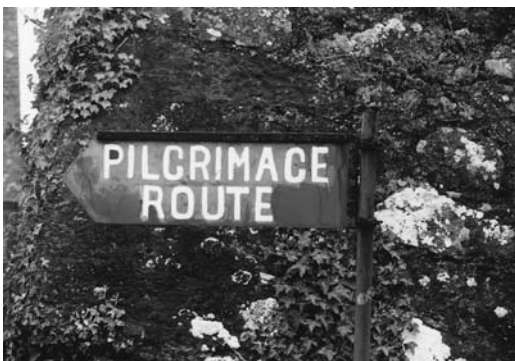


写真 3



写真 4

ノック Knock

聖母出現の聖地である。1879年8月21日、木曜日夜8時頃、ノックの教会の南方の切妻に聖母マリア、聖ヨセフおよび聖ヨハネが現われた。聖母マリアは大きな白い外套を着用していた。祈りの姿勢で彼女の手と目は天の方へ上げられてい

た。彼女の頭上には光り輝く王冠があり、額には美しいバラがあった。彼女の右側には聖ヨセフがおり、お辞儀をし、あたかも彼女に尊敬の念を払うかのように、少し彼女の方を向いていた。彼は白いローブをまとっていた。聖母マリアの左側には聖ヨハネがいた。彼は白い司教服を着て、左手には本を持ち、右手はあたかも説教するかのようにあげられていた。人物の右そば、大きな簡素な祭壇があり、その祭壇の上には西を向いた子羊が立っていた。子羊の後ろに大きな十字架があった。出現の間、天使は子羊の辺りを空中で舞っていた。天の光に覆われていた出現の間、15人の目撃者がいた。彼らは、様々な年代の男性、女性および子供であった。彼らは土砂降りに降る雨の中で、2時間出現を見て、ロザリオを暗唱した。それはあまりに現実的だったので、老婦人 Brigid Trench は切妻の近くまで行き、聖母マリアの足にキスしようとした。

ノックでは巡礼者が行うステーションとしては、特に定まったものはないが、まずチャペルを訪れ、shrine 近くの戸外で道行の十字架（Station of the Cross）を行う。道行の十字架とは、イエスが十字架にかけられた最後の日をそのままどる行事で、エッケホモ教会から聖墳墓教会までを行進する。途中で14のステーションがあり、巡礼者はそこで起こったことを黙想しながら進む。



写真 5



写真 6



写真 7



写真 8

ロー・デルグ Lough Derg

ロー・デルグはアイルランドの北西部 Donegal 地方にある湖である。名前の由来は、聖パトリックが大蛇と戦い、その怪物の血で湖が赤く染まったことから、Loch Dearg, the Red Lake と呼ばれるようになった。別には悪魔の母親と聖人が戦

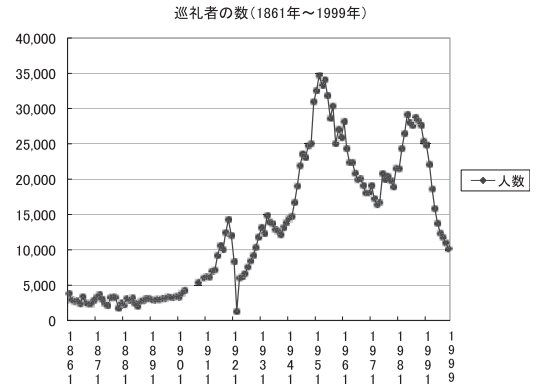


図 2 巡礼者数の推移

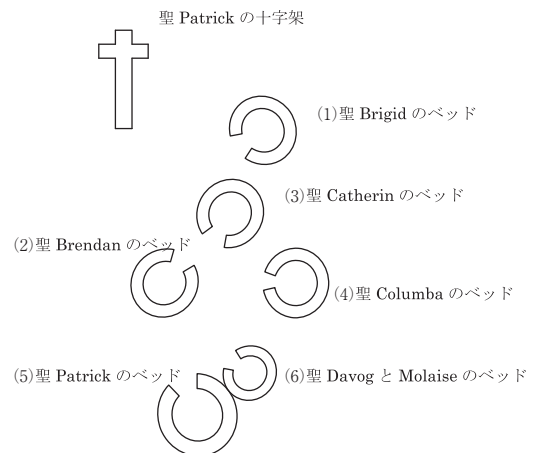


図 3 懺悔のベッド

い、その悪魔は Lough Derg に逃げたが、聖人は悪魔を追いかけて殺したという言い伝えもある。最近では Derg が穴、洞窟 (Deirc, Gercc) を意味するという説が有力である。

湖の中央には、Station Island (ステーション島) と呼ばれる小さな島があり、教会が建てられている。名前の由来は、四旬節の礼拝儀式や十字架の道行きのステーションといったラテン語 (statio 懺悔に関係した言葉) に由来する。このロー・デルグではステーションとは、懺悔のベッドとして知られている低い石壁の周りで祈る複雑なパターンを意味する (図 3)。図 2 に示したように、1000 年以上にもわたり巡礼者がやって来ており、現在でも裸足で、不眠、断食の修行が三日間実行されている。

修行の順序

1 日目

真夜中12:00	断食の開始 巡礼者はできるだけ早く到着し、(6月1日から8月13日までの任意の日)、登録し、ボートを待つ。 ボート：午前10:30～午後3:00まで
午前11:00	ステーションの開始 午後9:15までに3つのステーションを終える。
午後6:30	ミサ開始
午後9:20	夜の祈りと聖体降福式 徹夜の祈り
午後10:15	徹夜の祈りの始まり
午後11:45	ロザリオの祈り
午前12:30	4番目のステーション
午前2:00	5番目のステーション
午前3:30	6番目のステーション
午前5:00	7番目のステーション
午前6:30	午前ミサ
午前8:30	8番目のステーションの後、赦しの秘蹟
正午12:00	洗礼の誓約の一新
午後3:00	十字架の道行き
午後6:30	夜ミサ
午後9:20	夜の祈りと聖体降福式
午後10:00	徹夜の祈りの終結

3 日目

午前6:00	起床のためのベル
午前6:30	終結ミサ
午前7:30	9番目のステーション
午前9:45	ボートの出発

ステーションの順序

- ①聖 Patrick のバシリカ中の聖体への訪問でステーションを始めてください。
- ②バシリカの近くの聖 Patrick の十字架の所に行ってください。
ひざまずき、我らの父、アベマリア、Creed を1回唱えてください。
十字架にキスしてください。

- ③バシリカの外部の壁の聖 Brigid の十字架に行ってください。
ひざまずき、我らの父、アベマリア、と3回唱え、Creed を1回唱えてください。
十字架を背にして、腕を完全に伸ばして立ち、「私は、肉欲および悪魔の世界を放棄します。」と3回唱えてください。
- ④70のロザリオの祈りを静かにいき、最後に Creed を1回唱えながら、バシリカのまわりを右回りで、ゆっくり4回歩いてください。
- ⑤聖 Brigid のベッド (1) へ行ってください。
ベッドで
 - (a) 我らの父、アベマリアと3回唱え、Creed を1回唱えながら右回りにベッドの外側を3回歩いてください。
 - (b) ベッドの入口でひざまずいて、これらの祈りを繰り返してください。
 - (c) 内部を3回歩いて、再びこれらの祈りを唱えてください。
 - (d) 中心の十字架でひざまずいて、これらの祈りを唱えてください。
- ⑥聖 Brendan のベッド (2)、聖 Catherine のベッド (3)、聖 Columba のベッド (4) でこれらの儀式を繰り返してください。
- ⑦聖 Patrick のベッド (5)、聖 Davog と Molaise のベッド (6) から成る、大きな懺悔のベッドの外部を、我らの父6回、アベマリア6回、Creed 1回を唱えながら、6回歩いてください。
- ⑧聖 Patrick のベッド (5) の入口でひざまずき、我らの父、アベマリアと3回唱え、Creed を1回唱えてください。
これらの祈りを繰り返しながら内部を3回歩いてください。
中心の十字架でひざまずいて、再びそれらを唱えてください。
- ⑨聖 Davog および Molaise のベッド (6) の入口でひざまずき、我らの父、アベマリアと3回唱え、Creed を1回唱えてください。
これらの祈りを繰り返しながら内部を3回歩いてください。
中心の十字架でひざまずいて、再びそれらを唱えてください。
- ⑩水ぎわ (7) に行ってください。

立って、我らの父、アベマリアと5回唱え、
Creed を1回唱えてください。

ひざまずいて、これらの祈りを繰り返してください。

洗札のしるしとして湖水で十字を作ってください。

⑪聖 Patrick の十字架に帰ってください。

ひざまずき、我らの父、アベマリア、Creed を
1回唱えてください。

⑫バシリカに行き、賛美歌 15 の朗唱、あるいは
我らの父 5 回、アベマリア 5 回、Creed 1 回を
唱えることによりステーションを終えてくださ
い。

ロー・デルクの歴史 (Flynn, 1999)。

1100 年 宗教団体が2つの島を所有。ステー
ション島は、強い牽引力のある洞穴を持っており、
聖パトリックが利用したと言いつえられている。

1135 年 アウグスチヌス司教座聖堂参事会員が
管理。

1153 年 騎士 Owein の巡礼。

1186 年 Huntingdonshire にある Saltry 修道院の
Henry が、騎士 Owein の巡礼と煉獄について書
いた。このテキストの 150 のコピーが、ヨーロッ
パ中の図書館に今でも残っている。

1346 年 聖パトリックの煉獄を描いたフレスコ
画は、シエナの芸術家によって描かれた。

1497 年 聖パトリックの煉獄はローマ法王 Alex-
ander VI の命令で閉じられた。

1497 年 ドニゴールのフランシスコ会士がアウ
グスチヌス修道会士に代わって、ロー・デルクを
管理するようになった。

1516 年 ローマ法王の教皇使節 Chiericati が聖パ
トリックの煉獄を訪れた。

1596 年 Herenach 一族 Magraths がこの土地を保
持し、教会に管理させた。本来はゲールの法律で
教会に所有権があったものの、英国の法律で彼ら
とその子孫のために保障した。

1600 年 聖フランシスコ修道士 Michael O' Cleary
の報告書は巡礼を行う女性の最初に言及。

1632 年 聖フランシスコの修道会の下、アイル
ランド枢密院の命令で非暴力的に巡礼は抑圧され
た。

1632 年 Clogher の英国国教会主教 James Spottis-
woode は、島のすべての破壊を指揮した。1651
年 現代まで湖およびその周囲は主教 John Leslie
の家族が相続した。

1704 年 国会法は、巡礼地へ来た罰として 10 シ
リングの罰金を課した。

1780 年 聖フランシスコ修道会に替わり Patrick
Murray が Clogher 監督管区からの初代の聖職者
に。

1790 年 洞穴は塞がれ、その上に礼拝堂が建立。

1795 年 最も悲惨な災害。93 人の乗客を運ぶボ
ートが、Friar 島（ステーション島の波止場から
すぐ近くにある）の近くで沈んだ。3 人の巡礼者
だけが生き残った。

1813 年 3 日間の儀式的順序。

1826 年 15,000 人以上の巡礼者が島へ来た。

1846 年 大飢饉の前夜、30,000 人の巡礼者が来
た。

1860 年 巡礼者の数は 1846 年の 10 分の 1 に減
った。それはその世紀の終わりまで続いた。

1960 年 Shane Leslie Gaslough 卿は、湖および島
の全所有権を Clogher 監督管区へ寛大にも譲渡し
た。結果として、Clogher のカトリックの監督管
区が聖パトリックの煉獄、Lough Derg を安全に
所有することに繋がった。

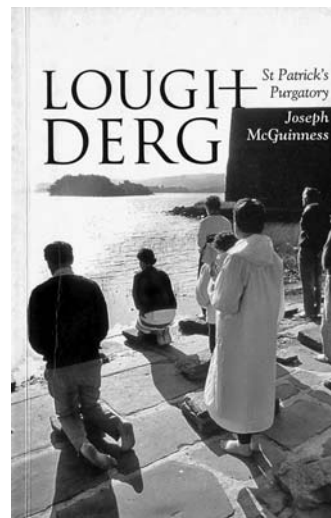


写真 9

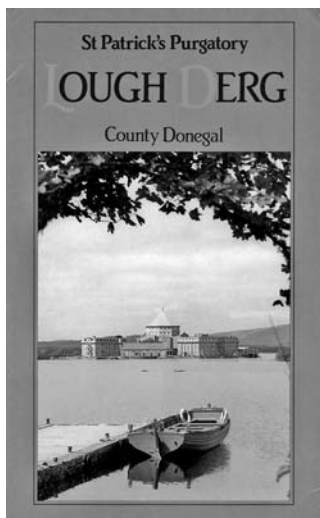


写真 10



写真 11



写真 12

クロー・パトリック Croagh Patrick

アイルランドの神聖な山であるクロー・パトリ

ック（別名リーク）は、765 m の高さにそびえ立つ、壮大なピラミッド形の自然の記念碑である。キリストとモーゼに倣って、聖パトリックが40日間頂上で断食のため選んだ場所である。聖パトリックは432年にアイルランドで彼の布教活動を始めた。9年後の441年に彼はクロー・パトリックにやってきた。この山に滞在中に、悪魔（Log na nDeamhan）と言われる、くぼみに逃げるヘビを追放したと言い伝えられている。従って今日まで、ヘビはアイルランドで存在しない。キリスト教布教前から、クロー・パトリックの頂上には丘の砦（石塁および住居を完備している）があった。頂上の遺跡発掘で、最も古いものでは紀元前3世紀のガラス玉が発見されている。巡礼は、キリスト教初期の時代から現代まで1500年以上、絶え間なく行なわれている。また、100,000人以上の訪問者が毎年、クロー・パトリックに来る。世界中から、巡礼者、登山者、歴史家、考古学者および自然愛好者などやって来る。そのうちの何人かの贖罪を求める人は裸足で登る。

クロー・パトリックの歴史 (Hughes, 2000)

441年 聖人 Patrick (パトリック) が Cruachan Aigli で40日間の断食

430年-890年 この頃に小礼拝堂があったことを示す、放射炭素が頂上で1994年に発見された。

824年-1216年 クロー・パトリック頂上の Teampall Phadraig の所有権に関して、Tuam のと Armagh の教皇 bishop の間で争いがあった。その争いは、結局、1216年に Tuam を支持するローマ法王によって解決された。

1079年 Torlach O'Brien は Connacht に侵入した。彼は Connacht 王国から Ruaidhi O'Connor を追放し、クロー・パトリックを略奪した。

1113年 30人の巡礼者が AD 1113年3月17日の夜に稲妻に打たれて死んだ。

1432年 ローマ法王 Eugene IV は、クロー・パトリックを訪れる懺悔者に免罪符を与えた。

1457年 Murrisk 僧院が設立された。今は廃墟。

1610年 ローマ法王 Paul V は、Reek の教会を訪れる信仰心のある人々に免罪符を与えた。

1798年 フランス人 (De Latocnaye) は、クロー・パトリックが非常に祝福された場所であるとい



写真 13

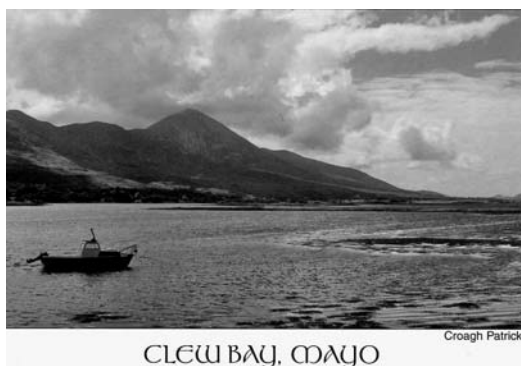


写真 14



写真 15



写真 16

う記録を残した。

1838 年 英国陸地測量部地図が最初に作成。

John O'Donovan は巡礼実行方法を記録した。

1883 年 Stephens 神父、仮の教会を建築。

1905 年 頂上にある現在の教会は 1905 年に建築され、1961 年に拡張された。

1997 年 Mary Robinson 大統領は、飢饉に対する全国記念碑の除幕をした。

巡礼の時期

- 1 7月の最後の日曜日 “Reek Sunday”
- 2 7月の最後の金曜日 “Garland Friday”
- 3 8月15日 “Feast of the Assumption”

巡礼儀式

ステーション（別名ベッド）とは折りの場所で

ある。アイルランドの巡礼の儀式は、ステーションを時計回りの方向に巡ることである。クロウ・パトリックには三つのステーション、“The memorial of Benignus”, “The Bed of Patrick”, “The Resting Place of Mary”を順に訪れる。基本的には、各場所で巡礼者は、Our Father, Hail Maryを7回唱え Apostles Creed Croagh Patrick、Lough Dergを1回唱える。

結論

筆者が現地調査で得た資料に基づき、本論文ではアイルランドには主に4つの聖地 すなわち、ノック、アワ・レイディズ・アイランド、クロウ・パトリック、ロー・デルグ があることが明ら

かになった。本論文では、聖地になった歴史的経緯や聖地巡礼について、可能な限り詳しく紹介してきた。その結果、この四つの聖地は、いずれも辺境にあるという点で共通性をもっている。植島(2000)は、著名なカトリックの聖地、すなわち、ルルド、ファティマ、チェンストホヴァは辺境の地にあると指摘している。ヨーロッパ大陸のみならず、アイルランドといった島の聖地でも、聖地が辺境の地にあることは、興味深い事実のように思われる。

更にこれら4つの聖地は図に示したようなパターンに整理することができる。横軸の意味は、母性的—父性的次元に対応している。ノック、アワ・レディーズ・アイランドは母性的聖地、それに対してクロー・パトリック、ロー・デルグは父性的聖地という意味である。聖母マリア信仰対聖パトリック信仰、歴史的に新しい聖地対歴史的に古い聖地という次元で考えて良いのかもしれない。この次元分類は、既に藤原(1999, 2002)によってイベリア半島の聖地巡礼で見出された結果とも一致している。すなわち、ルルド、ファティマ、エル・ロシオは母性的聖地、サンチャゴ・デ・コンポステラは父性的聖地の代表ということになる。縦軸は、山、森、川、泉、海といった自然物を備えた聖地であるか否かの次元である。筆者はノック Knock を訪れてみたが、特徴のある自然物は何もなかった。それに対して、アワ・レディーズ・アイランドは海、クロー・パトリック、ロー・デルグは湖といった自然物に聖地が囲まれていたり、聖地に自然物が隣接していたりする。Mazumdar & Mazumdar (2004) も指摘している

が、ヒンズー教や仏教の聖地においても、山、川、湖、池等といった自然は、聖地を定義する際に重要な条件であると考えられる。

アイルランド巡礼の共通の特徴は、祈りの場所であるステーションを巡ることである。具体的なステーションの場所は、それぞれの聖地によって異なる。たとえば、クロー・パトリックでは、山に登り、所定のステーションで祈りを捧げる。ロー・デルグでは、懺悔のベッドと呼ばれるステーションを順番に訪れ、祈りをささげる。基本的には、聖地内の巡礼であり、サンチャゴ・デ・コンポステラや四国遍路のように、何日もかけて、聖地に向かうといった巡礼とは異なる。

クロー・パトリックとロー・デルグは、いずれの聖地発生もアイルランドの聖人パトリックと深く関わっている。巡礼の目的は、両聖地でも懺悔が共通で、罪の許しと神の恩寵を求めることにある。クロー・パトリックでは、懺悔のため裸足で頂上まで登る信者もいる。一方ロー・デルグでは裸足になり、断眠・断食を三日間続ける。アイルランドの巡礼は、祈りの場所である、ステーションを巡ることである。

ところで聖地の場所がクロー・パトリックが山頂で、ロー・デルグが湖の中の島という違いはあるが、前者に近くには Loch Na Corra と呼ばれる小さな湖がある。伝説ではパトリックがこの湖に悪魔を沈めたと伝えられている。恐らく悪魔というのは古くからの宗教を象徴し、キリスト教が民族信仰にとって変わったことを意味している。また4月18日から8月24日にかけて太陽が山の頂上から北側の斜面の方向に転がり落ちるように沈んでゆく。これは The rolling Sun 現象と呼ばれ、巡礼道の一部は太陽の道に一致していることから、キリスト教普及以前の太陽信仰との関わりを伺わせる。

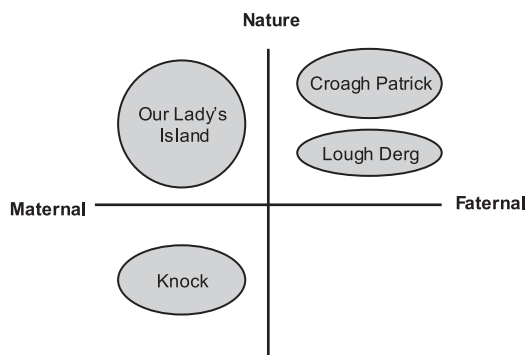


図4 聖地のパターン

引用文献

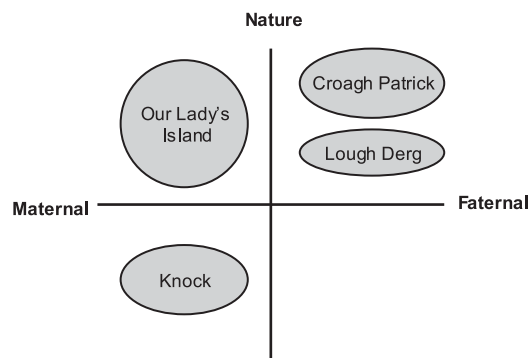
- Flynn, L. J. (1999). *St Patrick's Purgatory Lough Derg*. Jarrold Printing and Publishing.
- 藤原武弘 (1999). 自己過程としての巡礼行動の社会心理学的研究 (1) 関西学院大学社会学部紀要 82, 157-169.
- 藤原武弘 (2002). 自己過程としての巡礼行動の社会心

- 理学的研究 (5) 関西学院大学社会学部紀要 91, 61-70.
- マーティン グレイ (2009). 世界の聖地 東洋書林
- 星野英紀・山中弘・岡本亮輔 (編) (2012) 聖地巡礼ツアーリズム 弘文堂
- Hughes, H. (2000). *Croagh Patrick: An ancient mountain pilgrimage*. third edition. New Road, Westport, C. Mayo.
- 松岡絵里 (2011). 世界の聖地 図書刊行会
- Mazumbar, S. & Marzumber, S. (2004). Religion and place attachment: A study of sacred places, *Journal of Environmental Psychology*, 24, 385-397.
- 関一敏 (1993). 聖母の出現 日本エディタースクール出版部
- 四国遍路と世界の巡礼研究会編 (2007). 四国遍路と世界の巡礼 四国遍路と世界の巡礼 法蔵館
- 植島啓司 (2000). 聖地の想像力 集英社
- 山中弘 (2012). 概説 作られる聖地・蘇る聖地 星野英紀・山中弘・岡本亮輔 (編) 聖地巡礼ツアーリズム 弘文堂
- 山折哲雄監修 (1991). 世界宗教大辞典 平凡社

Sacred Places in Ireland

ABSTRACT

Ireland has four sacred places i.e Croagh Patrick, Lough Derg, Knock, and Our Lady's Island. It was found that sacred places in Ireland have been located at remote places. As shown in figure, sacred places might be described by paternal vs maternal dimensions. Also, nature dimension such as mountains, rivers, lakes, and seas is important to define sacred places.



Key Words: sacred places, Ireland, Our Lady's Island, Croagh Patrick, Knock, Lough Derg